

## プログラムの概要

本学科では、農村環境の創出・管理・評価、持続可能な食料生産の確保、資源・エネルギー利用に関する学識を身に付け、社会の幅広い分野で活躍できる技術者を育成することを目指している。2年後期から、①水土環境工学 A コース、②水土環境工学 B コース、③食料生産システム工学コース、④環境共生学コース のいずれかに分属し、それぞれの専門領域について学修する。4 コースではそれぞれ、①田園空間の創出プランニングや環境影響評価に携わる専門技術者、②地域環境と調和した持続的食料生産の基盤創出に携わる専門技術者、③生産環境システム開発や食品の流通・加工、地域資源循環に携わる専門技術者、④人と環境の共生をめざした地域計画や資源管理に携わるゼネラリスト的技術者の育成が図られる。卒業後の就職先としては、国・県・市町村や農村環境整備・生産基盤整備に関係する各種団体、調査・設計コンサルタンツ、土木建設関連企業、農業機械・施設開発企業、農産物・食品の流通・加工に関連する機械・装置開発企業、資源リサイクル関連企業などがある。学科 4 コースのうち①～③の 3 コースは JABEE（日本技術者教育認定機構）による技術者教育プログラムとして認定されており（2003 年度から）、3 コースの修了者は、卒業と同時に修習技術者となり、技術士補の国家資格を得ることができる。

## 修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

本学科では次の (A)～(E)の学習・教育目標を掲げています。

- (A) 広い人文的素養を培うとともに、食料の持続的生産・供給、地球環境の保全と修復、動植物の生命現象の解明、食料を通じた人間の健康の維持という農学の役割についての理解・認識を深める。
- (B) 現代の人間社会および自然環境に対する技術の役割と影響を理解し、技術者としての社会に対する責任の自覚を醸成する。
- (C) 高度な食料生産、快適な農村生活、豊かな自然生態系が調和し、持続する田園空間環境の実現を目指し、これら田園空間環境の創出・制御に関わる基礎として、数学・物理学系の工学的手法・アプローチを修得する。
- (D) 現実社会の変化する諸相の中で生起する田園空間環境に関わる様々な問題をフィールドに求め、幅広い分野の科学技術情報を活用して解決策を見いだすための実践的な方法論を身に付ける。また、課題研究を重視した教育を通じて、論理的な思考力、記述力、口頭発表の表現力、議論する能力、および英語を含むコミュニケーション能力を養うとともに、時間的制約下で計画的、自主的に学習・作業を実践する能力を醸成する。
- (E) 各コースの専門分野における技術者養成のため、各分野での専門的知識・技術及びデータ解析力の修得を図る。これらの目標の達成に必要な関連科目群が明示され、各コースの必修及び選択科目群の履修によって、目標が達成される。さらに、総合的な目標達成度評価のため、学生自身による達成度自己評価（評価用紙への記入）、卒業時に卒業総合試験（口頭試問）を実施している。また、JABEE3 コースでは GPA2.0 以上を卒業要件としている。

## 履修条件（アドミッション・ポリシー）

本学科では入学生に求める要件として、(1)数学系・物理系の基礎学力がある人 (2)環境と調和した農業システムや田園空間の創出に関心があり、かつ情熱のある人、(3)広く社会や環境に関わる問題意識をもち、課題解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を持つ人 を考えている。そのため、入学者選抜にあたっては、(1)高等学校までの教育課程を踏まえた基本的な学力と思考力、(2)数学・物理分野の基礎学力と学ぶ意欲、(3)論理的な思考力、主体的な姿勢、社会的な問題への関心、などの観点から判断する。

## 学習・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科の学生が履修すべき専門科目は、学科共通必修科目、コース別必修科目、コース別選択科目に分類される。学習・教育目標の (A)は主に基盤教育（専門導入科目）で培われるものとし、(B)～(D)の達成に必要な科目群を学科共通必修、(E)の達成に必要な科目群をコース別必修として配置している。学習・教育目標と科目群の関係については、各科目シラバスに記載されるとともに、コース・ガイダンスの際に、関連表の提示によって説明される。コース分属が 2 年生後期開始時であるため、学科共通必修科目は 1 年から 2 年前期に開講される。

# 宇都宮大学農学部農業環境工学科 カリキュラムツリー

